

# 第2四半期決算説明資料 (2017年度)

2017年11月30日



# 2017年度第2四半期 決算概要

## 2017年度第2四半期累計期間の総括

- 当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済が緩やかな成長を続けるもとで、日本銀行の金融政策や政府の経済対策の効果为背景に、企業収益や雇用環境の改善など、景気は緩やかな回復を続けてきました。一方で、米国の経済政策運営やその影響、新興国の経済動向やアジアにおける地政学的リスクの高まりなど、景気の先行きは不透明感を払拭できない状況にあります。
- このような事業環境の中、原子力発電所からの受注は前第2四半期累計期間の水準を下回りましたが、主要顧客である製造業からの受注や各種インフラの整備・改修に伴う受注が、堅調に推移したこと等から、呼吸用保護具全般の受注は、前第2四半期累計期間を上回る水準で推移しました。この結果、売上高は、前第2四半期累計期間比84百万円増の45億91百万円となりました。
- 一方、利益面では、引き続き生産効率の維持・向上に取り組みましたが、年度後半以降を見据えた製品供給体制の整備・強化に伴う諸経費増により製品原価率が上昇し、売上原価は前第2四半期累計期間比で1億8百万円増加しました。この結果、売上総利益は前第2四半期累計期間比24百万円減の13億49百万円となりました。
- また、販売費及び一般管理費については、期初からの積極的な拡販活動の推進強化に伴う人件費、諸経費増により、前第2四半期累計期間比48百万円増の15億14百万円となりました。
- 以上の結果、営業損失1億64百万円（前第2四半期累計期間は営業損失92百万円）、経常損失1億60百万円（前第2四半期累計期間は経常損失87百万円）となりました。また、法人税等の更正による還付金等もあり、四半期純損失は81百万円（前第2四半期累計期間は四半期純損失69百万円）となりました。

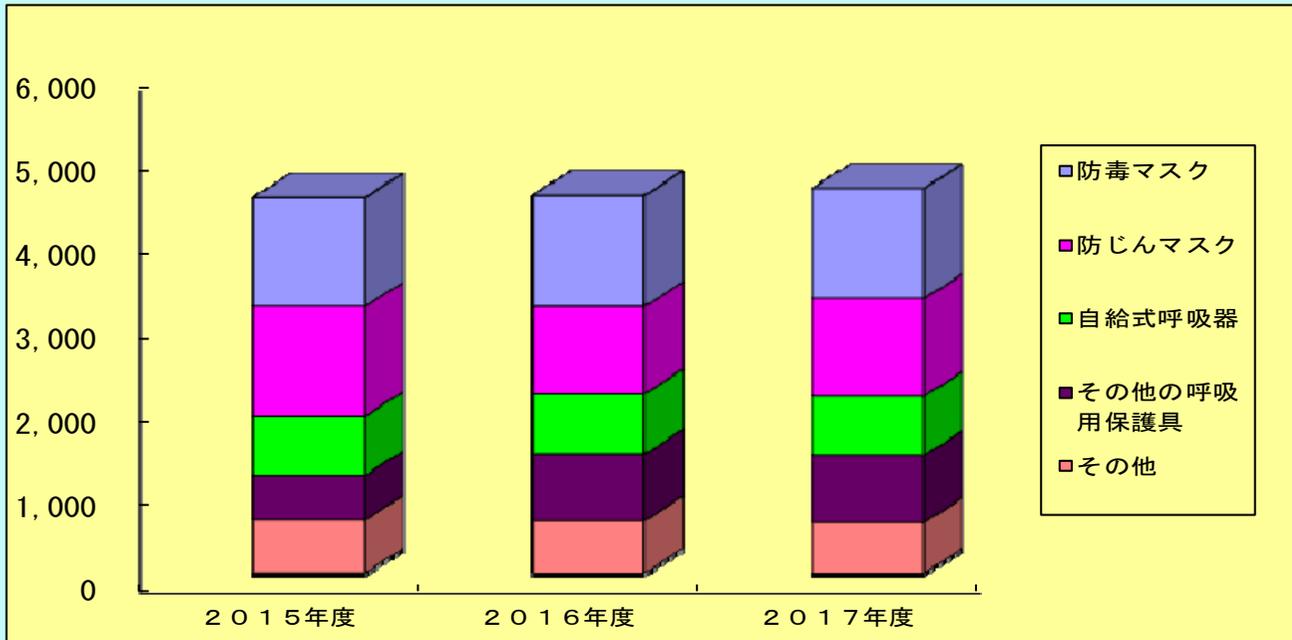
## 2017年度第2四半期累計期間の損益状況

(単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入)

	16年度第2四半期	17年度第2四半期	前年同期間比増減	備 考
売 上 高	4,506.6	4,590.6	84.0	製造業からの受注や各種インフラの整備改修に伴う受注等が、原子力発電所からの受注減を補い、売上高は前年同期間比で84百万円の増収となりました。
製品製造原価	2,259.2	2,393.5	134.3	前年同期間比では、製品製造原価は1億34百万円増加、一方、商品原価は26百万円減少し、売上原価全体では1億8百万円増加しました。この結果、売上総利益は24百万円減少し、売上高総利益率は1.1ポイント悪化しました。
商品原価	874.0	847.8	△ 26.2	
売上原価	3,133.2	3,241.3	108.1	
売上総利益	1,373.5	1,349.3	△ 24.1	
販売費及び一般管理費	1,465.7	1,513.5	47.8	前年同期間比で、販売費及び一般管理費が48百万円増加した結果、営業損失は72百万円増の1億64百万円となりました。
営業利益	△ 92.3	△ 164.2	△ 71.9	前年同期間比で、営業外収益、営業外費用の収支差に大きな変動はありません。
営業外収益	31.4	28.5	△ 2.9	
営業外費用	26.5	24.8	△ 1.7	
経常利益	△ 87.3	△ 160.4	△ 73.1	前年度に引き続き、特別損失に該当する特筆すべき費用計上はありません。
特別損失	6.8	0.1	△ 6.7	
税引前四半期純利益	△ 94.1	△ 160.5	△ 66.4	前年度に係る法人税等の更正による還付金が32百万円あったこと等から、四半期純損失は、前年同期間比で11百万円増の81百万円となりました。
法人税、住民税及び事業税	3.3	2.9	△ 0.4	
還付法人税額	-	△ 32.1	△ 32.1	
法人税等調整額	△ 28.3	△ 50.8	△ 22.5	
四半期純利益	△ 69.1	△ 80.5	△ 11.4	

## 第2四半期累計期間のセグメント別売上高推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

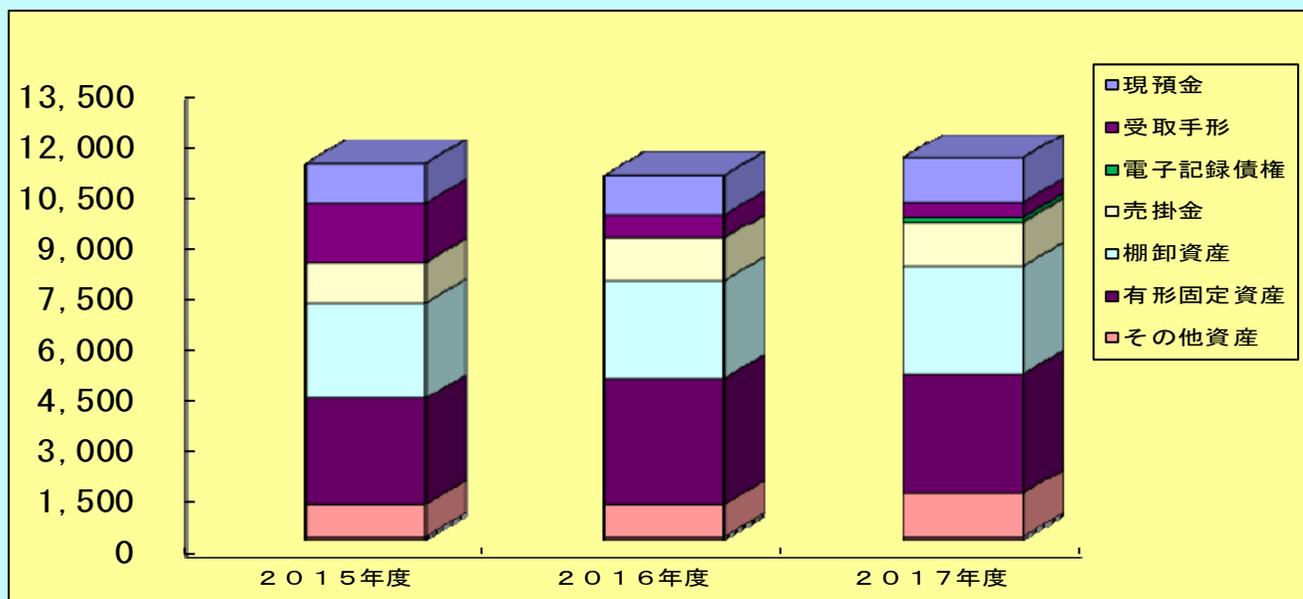
	2015年度	2016年度	2017年度
防毒マスク	1,298.0	1,325.0	1,312.0
防じんマスク	1,306.9	1,041.0	1,164.4
自給式呼吸器	708.1	720.8	706.5
その他の呼吸用保護具	530.3	790.9	797.7
その他	636.9	629.0	610.0
合計	4,480.3	4,506.6	4,590.6

### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 原子力発電所からの受注は減少したものの、製造業から受注や各種インフラの整備・改修に伴う受注等により、当第2四半期累計期間の売上高は、前年同期比で84百万円の増加となりました。
- ② 防毒マスクは13億12百万円と、前年同期比13百万円の減少となりました。
- ③ 前年同期比で、防じんマスクは、使い捨て式防じんマスクを中心に1億23百万円の増加、自給式呼吸器は14百万円の減少となりました。また、その他の呼吸用保護具等の合計は、引き続き、電動ファン付き呼吸用保護具を中心に、前年同期間並みの水準を維持しております。

## 第2四半期末の主要資産状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2015年度	2016年度	2017年度
現預金	1,160.6	1,145.3	1,301.0
受取手形	1,763.1	695.1	431.5
電子記録債権	6.5	11.4	147.9
売掛金	1,172.3	1,245.9	1,323.1
棚卸資産	2,834.0	2,883.9	3,177.6
有形固定資産	3,145.0	3,748.1	3,539.0
その他資産	949.1	947.2	1,278.1
合計	11,030.7	10,676.9	11,198.2

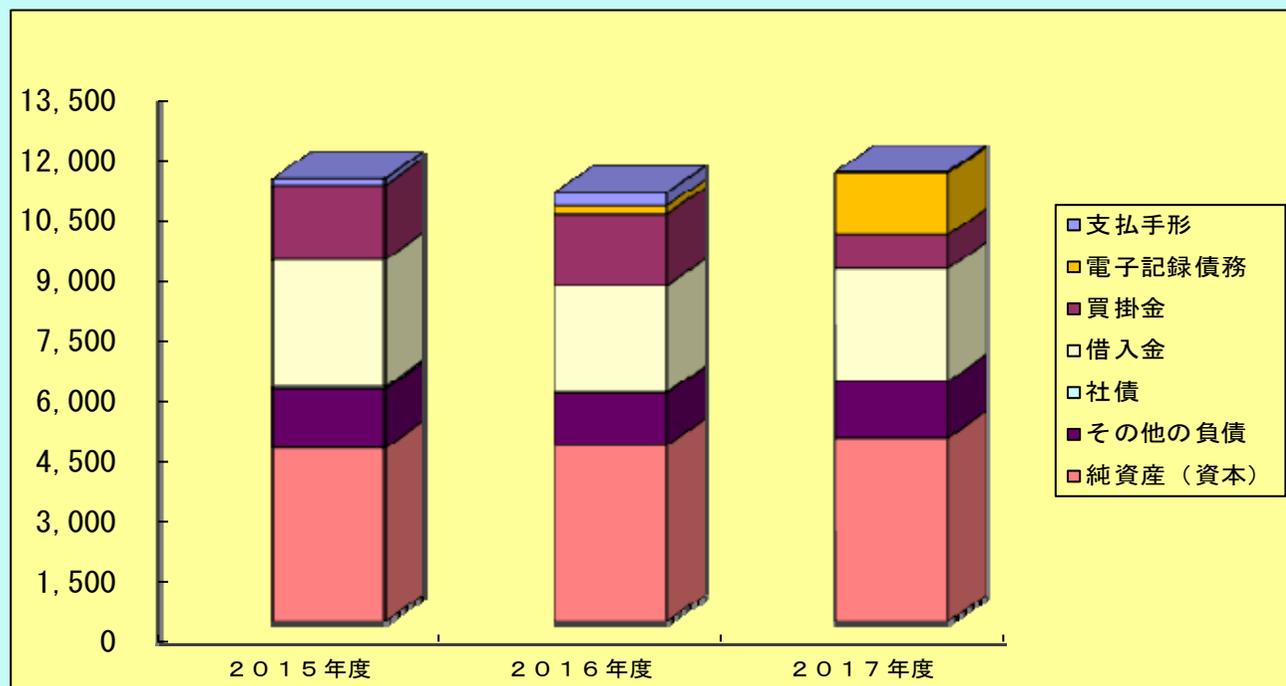
注：本表における受取手形には、債権売却手形（資金化分）は簿外のため含まれていません。

## 当第2四半期末の特徴

- ① 現預金の残高は、前第2四半期末比では1億56百万円増加していますが、これは通常の変動範囲内にあるものです。
- ② 割引手形による資金調達もあり、売上債権（受取手形＋電子記録債権＋売掛金）は、前第2四半期末比で50百万円の減少となりました。
- ③ 棚卸資産は、年度後半以降の受注に備えて積み増して来ており、前第2四半期末比では2億94百万円の増加となっております。
- ④ これまで実施してきた設備投資に伴う減価償却の進捗により、有形固定資産は、前第2四半期末比では2億9百万円の減少となっております。
- ⑤ 保有株式の株価上昇を受け、投資有価証券が3億43百万円増加し、その他資産全体でも、前第2四半期末比で3億31百万円の増加となっております。

## 第2四半期末の主要負債・純資産状況推移

(単位：百万円)



### 当第2四半期末の特徴

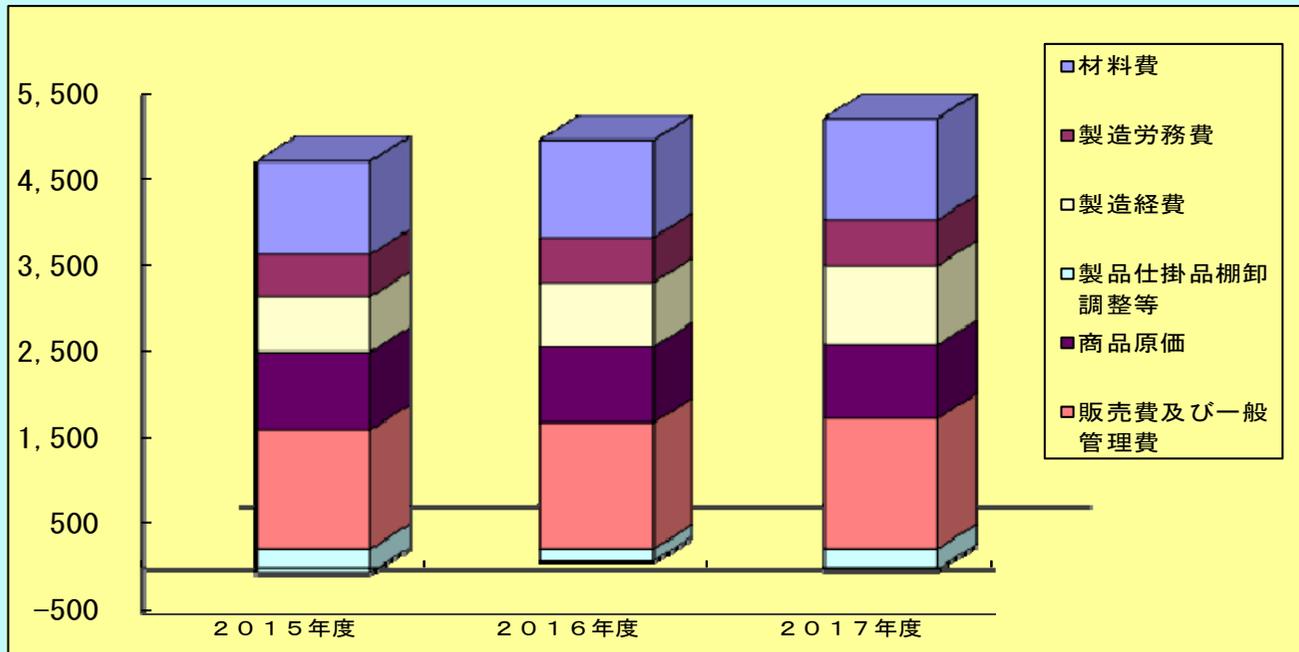
- ① 年度後半以降の受注に備えるため、支払債務（支払手形＋電子記録債務＋買掛金）は、前第2四半期末比で95百万円の増加となっております。
- ② 運転資金の調達により、借入金残高は、前第2四半期末比では1億23百万円増加しております。
- ③ 負債合計は3億24百万円増加、純資産は1億97百万円増加した結果、自己資本比率は当第2四半期末で40.9%と、前第2四半期末とほぼ同じ水準となっております。

単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2015年度	2016年度	2017年度
支払手形	165.9	321.9	31.3
電子記録債務	-	207.5	1,538.0
買掛金	1,852.1	1,778.0	833.6
借入金	3,168.0	2,667.3	2,810.0
社債	60.0	20.0	-
その他の負債	1,460.5	1,297.4	1,403.3
純資産(資本)	4,324.2	4,384.7	4,582.0
合計	11,030.7	10,676.9	11,198.2

## 第2四半期累計期間の売上原価・販売管理費状況推移

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	2015年度	2016年度	2017年度
材料費	1,080.3	1,129.2	1,177.8
製造労務費	490.2	520.1	528.2
製造経費	642.8	750.3	924.2
製品仕掛品棚卸調整等	△ 274.5	△ 140.4	△ 236.7
商品原価	898.5	874.0	847.8
販売費及び一般管理費	1,382.1	1,465.7	1,513.5
合計	4,219.5	4,598.9	4,754.8

## 当第2四半期累計期間の特徴

① 材料費は、年度後半以降の受注に備えるための製品在庫積み増しにより、前年同期比で49百万円増加しました。この結果、製品売上高に占める比率は34.5%と、ほぼ前年同期間並みの水準となっております。

製造労務費は、効率的な生産体制に基づく製造要員の最適配置を機動的に進めた結果、前年同期間比では8百万円の増加に止まっております。

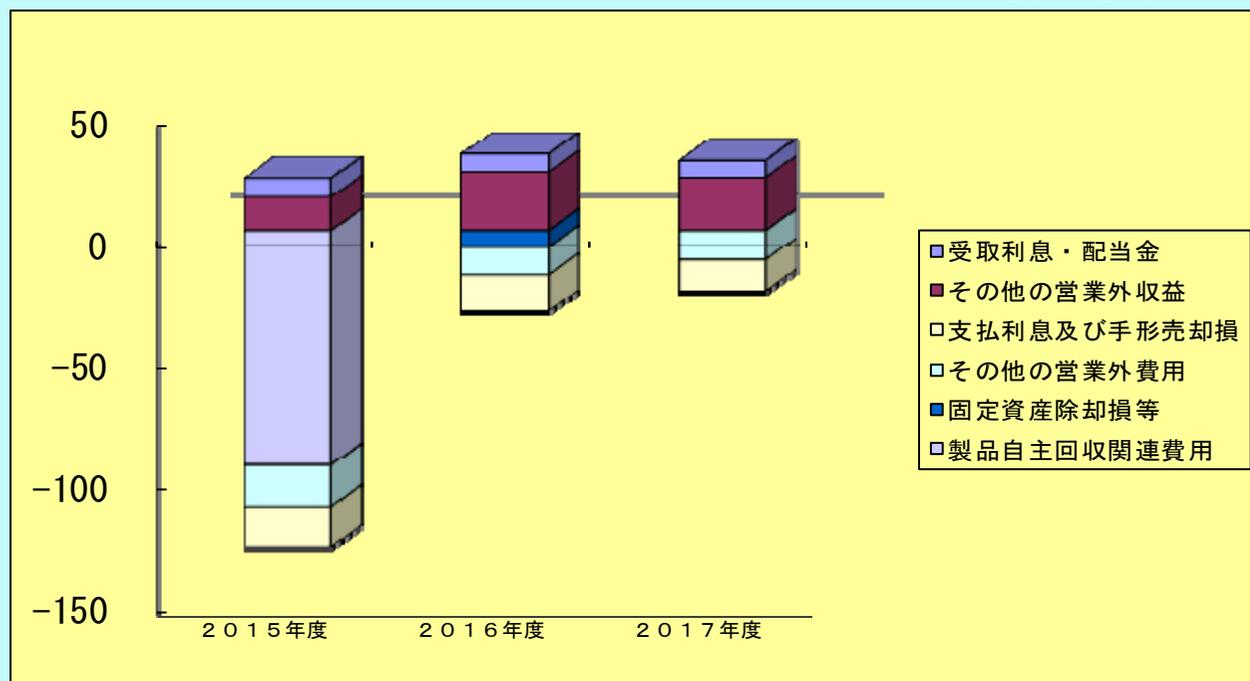
製造経費は、前年同期間比で1億74百万円の増加となり、製品売上高に占める比率は4.5ポイント悪化しました。

② 商品原価については、効率的な仕入に努めた結果、商品売上高に対する比率は72.2%と、前年同期間比で約1ポイント改善しました。

③ 販売費及び一般管理費については、期初から積極的な拡販活動の推進強化に伴う人件費、諸経費増により、前年同期間比では48百万円増加しました。

## 第2四半期累計期間の営業外・特別損益推移

(単位：百万円)



### 当第2四半期累計期間の特徴

- ① 営業外収益は、前年同期間比で、受取ロイヤルティが4百万円増加し、為替差益が8百万円減少した結果、全体では3百万円減少しました。
- ② 営業外費用は、支払利息以外には大きく変動した項目はなく、全体では前年同期間比で2百万円減少しております。
- ③ 特別利益に計上すべきものは、前年同期間と同様にありません。
- ④ 少額の固定資産除却損を除くと、特別損失に計上すべきものはなく、前年同期間比では7百万円の減少となっております。

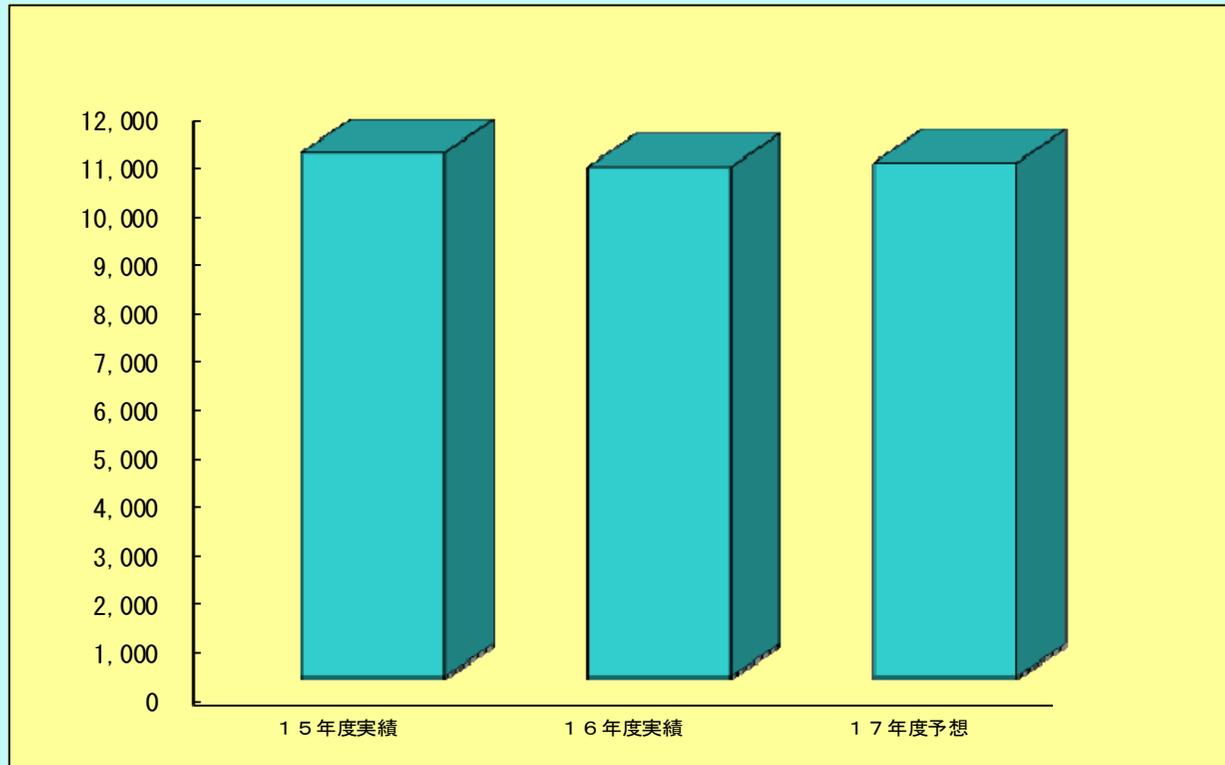
単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

		2015年度	2016年度	2017年度
営業外損益	受取利息・配当金	7.7	7.5	6.9
	その他の営業外収益	13.7	23.9	21.7
	支払利息及び手形売却損	△ 16.8	△ 15.1	△ 12.9
	その他の営業外費用	△ 16.6	△ 11.4	△ 11.9
	営業外損益合計	△ 11.9	5.0	3.7
特別損益	固定資産除却損等	△ 0.2	△ 6.8	△ 0.1
	製品自主回収関連費用	△ 96.1	-	-
	特別損益合計	△ 96.3	△ 6.8	△ 0.1

# 2017年度通期業績予想

## 2017年度通期の売上高予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点未満四捨五入

	15年度実績	16年度実績	17年度予想
通 期	10,809	10,510	10,600

## 状 況 と 見 通 し

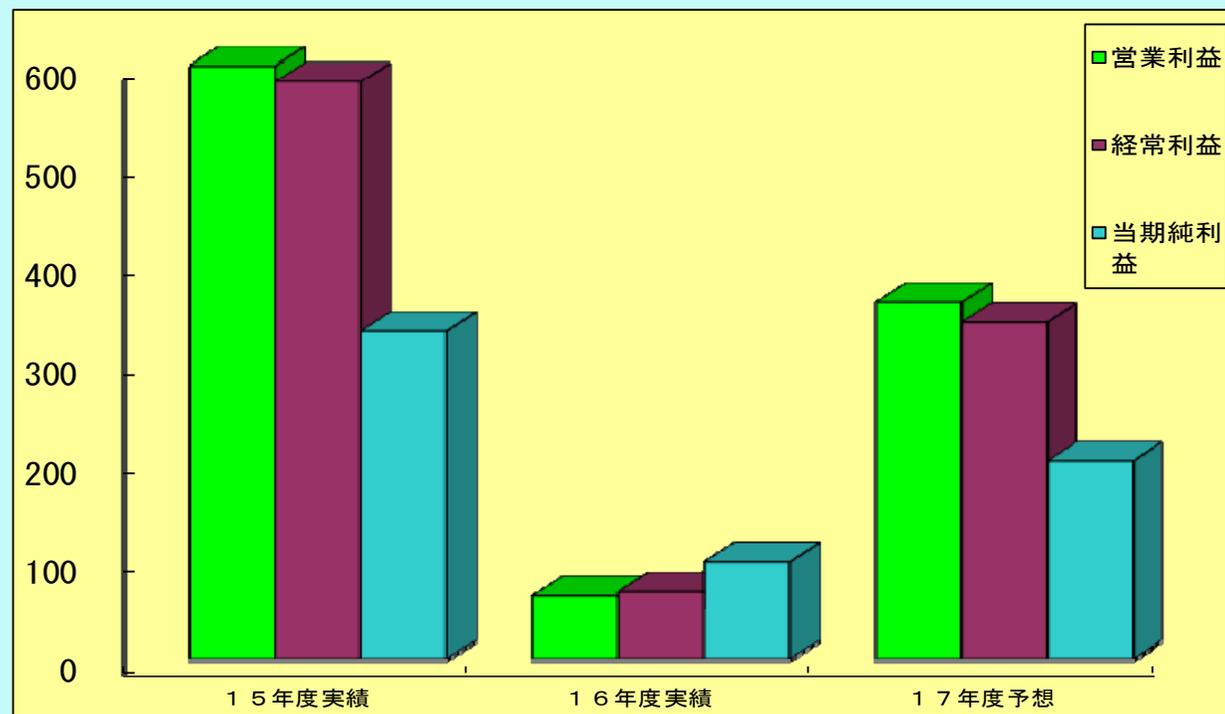
当第2四半期累計期間の売上高は、原子力発電所向け製品の受注が前年同期間の水準を下回りましたが、主要顧客である製造業からの受注や各種インフラの整備・改修に伴う受注が堅調だったこと等により、本年5月に公表した業績予想に比し、2億91百万円の増収となりました。

通期の売上高予想値につきましては、上記の実績を踏まえ、当事業年度後半の事業環境や受注動向等を見通しますと、現時点では、本年5月に公表した106億円から大きく乖離はしないものと見込んでおります。

今後、上記の見通しに変化があると予想された場合には、適時開示規則に則り、速やかに業績予想の修正発表を行ってまいります。

## 2017年度通期の利益予想

(単位：百万円)



単位：百万円、小数点以下第2位四捨五入

	15年度実績	16年度実績	17年度予想
営業利益	599.1	64.8	360.0
経常利益	583.1	68.3	340.0
当期純利益	330.9	98.5	200.0

## 状況と見通し

当社における年間売上高の構成は、前事業年度実績で見ますと、上半期 45.1 億円、下半期 60.0 億円（内、第4四半期 34.7 億円）と、恒常的に下半期、特に第4四半期のウエイトが高くなっております。

当第2四半期累計期間の利益実績は、年度後半以降の製品供給体制の強化や積極的な拡販活動の推進強化に伴う費用先行の影響を受け、本年5月公表の利益予想を下回りましたが、引き続き第3四半期以降も製・商品ともに積極的な拡販活動に注力してまいります。

以上のことから、現時点では、本年5月に公表しました通期の利益予想値につきましても修正は行わず、営業利益3億60百万円、経常利益3億40百万円、当期純利益2億円を見込んでおります。